

2024年度第2回プロジェクト評価委員会 議事抄録

日時：2024年7月10日（水）9:00～10:00

場所：ZoomによるWeb会議

出席者（敬称略）：

委員：井岡、犬塚、大内(正)、奥村、川端[†]、小杉、齋藤^{††}、清水、藤澤、満田、吉田
(^{††}委員長、[†]副委員長)

オブザーバ：生駒研究連携主幹（議題3）

事務局：総務課総務係(古川、大内(香))

欠席者：徂徠委員

【議 題】

1. 前回議事抄録案の確認
2. 2023年度プロジェクト評価に伴う意見書（案）について
3. 2024年度プロジェクト評価について
4. その他

【配付資料】

- 資料1 2024年度第1回国立天文台プロジェクト評価委員会議事抄録（案）
- 資料2 2023年度プロジェクト評価に伴う意見書（案）
- 資料3 2024年度 CfCA プロジェクト評価3項目（案）
- 参考資料1 野辺山宇宙電波観測所評価報告書
- 参考資料2 水沢VLBI 観測所評価報告書
- 参考資料3 水沢VLBI 観測所評価報告書（Appendix A）
- 参考資料4 ASTE プロジェクト評価報告書
- 参考資料5 Scientific Goals and Missions (CfCA)

【議 事】

議題1. 前回議事抄録案の確認

齋藤委員長より、2024年7月1日を期限として照会された前回委員会の議事抄録案（資料1）について説明があり、一部文言を修正することについて提案があった。審議の結果、修正案を速やかにメール審議することとなった。

議題2. 2023年度プロジェクト評価に伴う意見書（案）について

齋藤委員長より、2024年7月1日を期限として照会された2023年度プロジェクト評価の意見書（案）（資料2）について、前回委員会で議論された2点および、終了後のメール審議に基づく修正等について説明があった。また、野辺山・水沢・ASTEの各評価報告書の最終版（参考資料1～4）を各外部評価委員会より受理したことについても報告があり、前回審議を行った評価報告書案からの変更点を確認した上で、これを受けて改めて意見書に記載することはないか、審議を行った。

審議の結果、意見書（案）は原案のまま確定された。齋藤委員長より、各評価報告書と意見書は今後台内諸会議で報告された後、国立天文台ホームページ¹に掲載されることについて説明があった。

議題 3. 2024年度プロジェクト評価について

2024年度の評価対象である天文シミュレーションプロジェクト（CfCA）の評価コーディネータに決定した生駒研究連携主幹及び齋藤委員長より、資料3、参考資料5に基づき、前回委員会で審議できなかったCfCAの評価に関する3項目（案）について説明があり、続いて各項目について審議が行われた。

(エ) 外部評価の項目、(オ) 外部評価の観点、 評価基準

意見交換が行われ、委員からの意見を基に事務局で修正案を作成した上でメール審議にて進めることとした。

主な意見・質疑応答

- ・ 予算のうち何割をスーパーコンピュータに割けるか、という議論はしないのか。
→ 評価では、過去数年のプロジェクトの活動状況の評価をする。その中で、予算配分が適切であったかを評価することはある。評価コーディネータを通じて「天文台全体の予算のうち、CfCAやスパコンの予算はどのくらいか、他のプロジェクトと比べてどうなっているか」と質問いただければ、それに対応する資料を準備することは可能。
- ・ 資料3に記載されている「4つの重要課題」とは参考資料5のScientific Goals and Missionsとは異なるものか。
→ 台内向けのScientific Goals and Missionsに記載されている。
→ 台内向けの資料にのみ記述されているのであれば、4項目がはっきりわかるように評価の観点として記載すべき。また、これはいつ提示されたものか？
→ 2022年8月19日に提示された。
→ 提示されてから現在までの期間でどのくらいのことができたかということは考慮しなくてはならない。評価対象期間が短いこともしっかり認識した上で実施することについて、CfCAと調整したほうが良いのではないか。
- ・ これまでの期間を含めて若手人材育成が適切になされているかという意味か。
→ 人材育成についてどこまで成果が見える形となっているかわからないところもあるので、（これまでとこれからの）両方。
→ これまでの人材育成は客観的事実として資料が出せる。それに加えて育成の具体的な考え方、方針、スタッフとしてどのように指導しているか、今後も継続するか、やり方を変えるか、などを意識した記載と理解した。
→ センター長はこれまで変わらなかったなので、今後についてどこまで視野に入っているか、評価していただきたい。

¹ <https://www.nao.ac.jp/about/reports/external-reveiw/>

- ・「今後の予算の展望」を追記してはどうか。
- ・ユーザーズミーティング等での指摘事項へのフィードバックがうまくいっているかなど、共同利用機関としてはユーザーからのフィードバックに適切に対応しているか、といった項目も追記してはどうか。
- 修正し、評価の観点を追加する。
- 共同利用機関としての重要な役割だと思う。
- ・参考資料5のPrimary Scientific Goalsに書かれた達成目標に対して評価をすべきではないか。今の評価の観点はMissionsに対して記載されている。
- 評価の観点がScientific Goals and Missionsの具体的な目標になっていることがわかるように、少し加筆する。
- ・(参考資料5の)Target dateは2024年3月末とあるので、次の期間には新しい科学目標をmodifyし、定義されると考える。この評価の観点でupdateされた目標の提案が出てきて、それを見ていただくというイメージか。
- 具体的なイメージはCfCAに確認していない。評価する委員の方から(外部評価委員会へ)伝えていただくのが良い。プロジェクトの設置期限は、昨年度中に台内で延長手続きをする予定だったが、スパコンの導入等があってCfCAが対応できず、少し遅らせることにした。この評価を行うことによってより良いCfCAの姿が出てくればよい。

(カ) 外部評価委員会の委員の人数と人選

審議にあたり、齋藤委員長より以下の説明があった。

- ・プロジェクト評価委員会の台外委員より1名含める
- ・評価コーディネータは担当執行部である生駒研究連携主幹に決定済み
- ・外国機関に所属する職員2名以上(委員長も)
- ・評価委員全体で女性を1名以上含める

審議の結果、国外委員は原案通りとし、国内委員は本日の議論を基に委員候補者(及び優先順位)を決定した。

- ・国外委員：2名以上→優先順に就任を依頼し、上位2名とする。
- ・国内委員：コミュニティの有識者1名以上→決定済みのプロジェクト評価委員会台外委員1名を除き、優先順に就任を依頼し、上位1名ないし2名とする。

議題4. その他

齋藤委員長より、今後のスケジュール等について以下の確認及び説明があった。

○前回委員会議事抄録案：

修正の上、速やかにメール審議とすることについて確認した。

○2024年度プロジェクト評価について：

本日決定した外部評価委員候補者について就任依頼を行い、評価の観点は本日の意見を反映したものを後日メール審議することについて確認した。

○2023年度プロジェクト評価報告書及び評価に伴う意見書：

評価報告書及び意見書は台内諸会議を経て、8月上旬頃に天文台ウェブページに掲載される予定について説明があった。

○本日の委員会議事抄録案について：

後日メール審議となることについて依頼があった。

最後に、齋藤委員長から全委員へ、今期委員会の開催は今回が最後となることから謝辞が述べられ、引き続き残りの業務などへの協力が依頼された。

以上